1．自己評価及び外部評価結果

作成日　平成22年1月4日

【評価実施概要】

事業所番号	3771700832
法人名	社会福祉法人豊中福祉会
事業所名	グループホームとよなか
所在地	香川県三豊市豊中町笠田笠岡６９７－１ （電　話）0875－56－6260

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成２１年１１月１３日	評価決定日	平成２２年１月４日

【情報提供票より】（21年10月1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　15 年　4月　28日	
ユニット数	2ユニット	利用定員数計　18人
職員数	14人	常勤　13人，非常勤　1人，常勤換算　13．6人

（2）建物概要

建物構造	鉄骨造り
	1階建て

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	20，000円		その他の経費（月額）	2，000円＋実費
敷　　金	有（　　円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　　円） 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	200円	昼食	350円
	夕食	350円	おやつ	100円
	または1日当たり　　円			

（4）利用者の概要（11月13日現在）

利用者人数		18名	男性	2名	女性　16名
要介護1		6名	要介護2	8名	
要介護3		3名	要介護4	0名	
要介護5		1名	要支援2	0名	
年齢	平均	84．6歳	最低	74歳	最高　99歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	香川井下病院　大塚歯科医院

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

私達グループホームとよなかは、緑の田園と住民の家に囲まれ、大型スーパー・美容室・高校・幼稚園が隣接している為、買出しは日々田園の中の季節感を味わいながらドライブし、利用者に新鮮な食材を選んでいただいている。利用者の「できる力」を活かし、食事であれば切り込みをする人・盛り付けをする人・配膳をする人に分かれ、協力し作り上げることによってお互いに役割感も持っていただけるようにサポートしている。また、食事以外では毎食後の清掃でも役割を持ち取り組んでいただいている。地域交流に力を入れており、地域ボランティアさんをはじめ近隣住民の方を招待した「もちつき」を行っており評価をいただいている。家族との連携をとるために毎月1回の家族会を行っており、それ以外でも月初めには前月の状態を記録した状況報告シートを家族へ送ったり、月1回の状況報告日を設けこまめに連絡することで職員と家族で共通認識を持ち利用者の対応にあたっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

夏祭り、敬老会に家族が積極的に参加する等、家族との連携が取れている。また、行事の度にアンケートを送付したり、行事をより良くする為の工夫や努力も行っている。ケース記録は本人の写真入りで介護計画や食事等日々の生活状況を詳しく記載し、各職員が利用者を共通認識するのに役立てている。昼食後は利用者一人ひとりが役割分担を自覚し、食器洗いや床掃除を自主的に行い、職員が共に関わるほほえましい姿が見られた。また、毎月、高齢者グループのボランティア訪問があり、読み聞かせやカラオケ、脳トレゲームで楽しいひと時を過ごせている。今後は、現在、職員数の関係で参加が難しい地域の祭りや小学校等の運動会に利用者と共に参加できる家族を含めた外出支援のボランティアの活用も期待される。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	グループホームとよなか 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との関わりを重視し、住み慣れた地域で安心した生活が送れるような理念を職員全員で考え、また毎日の朝礼時に理念を唱和し実践が理念に基づいたものになるよう取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を職員全員で考え作っている。また、毎日の朝礼時、事務所に掲示している理念を唱和している。、一つひとつの文言が複雑で一部の職員を除いては内容把握ができにくい状況が見られる。	グループホームとよなかのパンフレットに載っている「とよなか」の一字を頭文字にしたキャッチフレーズを元に、利用者、職員が親しみやすい地域密着型の内容を再検討することなど工夫が望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年より職員が地域活動（井手ざらえ）に参加し、継続して参加し続けている。また、地域の文化祭に作品を出品したり見学をするなどし、交流を図っている。	年末の井手ざらえや餅つき大会には参加している。認知症の理解の為にも毎月の地域行事への参加を希望しているが、職員数の関係から実現できていない。	利用者の地域での生活の基盤作りを行うために、井手ざらえや餅つきと同様に年間を通した地域行事にも積極的に参加することができるよう外出ボランティアの協力が望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前管理者が自治会の集会に出向き、認知症に関する勉強会を開催した。運営推進会議にて話し合ってはいるが、実践には至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1度定期的に開催されており、評価の報告を行うとともに、そこで上がった意見について出来そうなことをサービスに反映するように努めている。	これまで参加していなかった老人会長宅に管理者と職員が資料持参で出向き説明したところ、参加の実現に結び付く等、ホームのきめ細かな配慮が見られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は市町村担当者と連絡、行き来する機会がある。その他の職員については運営推進会議以外はあまり行き来がない。互いの情報交換を行う等サービス向上に向けた取り組みをしていく必要がある。	運営推進会議を利用した施設側の情報提供及び調査票を持参した際に市役所担当窓口に出向き、情報収集に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の安全を追求しながら自由な暮らしを支える取り組みを職員が理解し、いつでも気軽に出入りできるようにしている。	自動ドアの玄関は鍵をかけていない。利用者が外出しそうな様子を見かけた際に、携帯電話を持って同行し、安全面に配慮しながら利用者の納得のいく自由な暮らしを支える実践をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会で虐待を正しく理解し、入居者の権利が守れるよう職員は日々取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一昨年は外部から講師を招いた勉強会をもったが、昨年は勉強会を開いていない。外部研修に参加した職員もいるが、それを活かした勉強会などはもてていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明や重度化に向けての指針などを詳しく説明している。また入居者、家族の不安や疑問にも十分な時間をかけ対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は日々のケアの中で、利用者一人ひとりの発言や態度等、気付いたことを毎日のケース記録に記入している。また、家族会や面会時には状況報告をした際に意見を聞くような働きかけをしており、職員全員が家族の意見に耳を傾け反映していく体制づくりができている。	日常の生活場面で自然な形で利用者と話す中で一人ひとりの想いをしっかり聞き受け止めている。また、毎月の家族会での問いかけや敬老会後にアンケートを送り意見を戴く等、何でも言ってもらえる雰囲気づくりに努めている。出された意見、要望等はミーティング時、職員間で話し合い、反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のケースワーカー会議にて問題点や改善策を具体的に話し合う等ホームの運営やサービス内容に職員の声は活かされている。また職員から運営者に対しては法人の代表者会議を意見具申の場として活用する試みが始まっている。	管理者は、職員の意見に対し耳を傾け、事業所内環境等、徐々に職員の意見が反映されつつある。	ミーティング、勉強会、個別面談等で、職員の意見を聴く機会を設けたり、普段からコミュニケーションを図り、問いかけたり、聞き出す工夫が望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績に応じて研修参加や資格取得に向けて勤務調整しながら努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症勉強会を継続して開催している。法人外の研修には管理者等は参加しているがその他の職員はなかなか参加する機会がない。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催の研修会に参加する他、地域の事業者へ見学に行ったり、地域の事業者協議会の立ち上げに関わり、その勉強会などに参加するなどしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人との面談を行い、不安や困っている問題と向き合い、一緒に解決の糸口を探しその人なりの理解に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や入居調査時には納得のいく形で入居していただけるよう説明を行い、現状で困っている事や意見を入居後のケアに反映されるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の中で本人や家族が望んでいる事を踏まえ、総合的に見て必要な支援を考え、他のサービス利用についてアドバイスを行うとともに、グループホームで生活する上で必要な問題点を明確にし優先順位を定め柔軟な対応ができている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの経験を生かして日々の生活の中で教えていただいたり、日常のコミュニケーションを重ねることで共に支えあえる関係作りに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や状況報告を通じて情報を共有したり、ケアに関して相談しあうことで一緒に問題に取り組み、職員と家族が本人の生活を支援し支えていけるような協力関係が維持できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホームへの面会などでこれまで関係があった方との交流が図れるような支援をしたり、家族の協力で外出や外食をしている方もいる。ただ、外出に努めてはいるものの、本人に馴染みのある場所への外出はできておらず、関係は薄くなりつつある。	地域の入居者が多く、近くのスーパーに買物に出かけたり近所を散歩したりすることで、気軽に地域の方からの挨拶や声かけがある。また、利用者と昔から馴染みのある地域の方が同法人のデイサービス帰りに立ち寄り、話をしたりしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士が声を掛け合い、自主的に役割を持ってくれている。出来ない人には生活の中で出番や役割分担ができるよう職員が支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の協力病院へのお見舞いや支援相談、他のサービス利用やその手続きの支援を行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の思い込みの視点にならないよう常に本人本位の視点に立って支援できるようにカンファレンスを行ったり家族の意向をうかがっている。また、本人がどうしたいのかを重要視して、その人らしい暮らしができるよう努めている。	入居時に利用者と家族双方の意見を聴いている。また、利用者との日々の関わりの中で声をかけたり、表情から利用者の思いや意向の把握に努めている。外泊希望や家族との外出希望がある場合は、継続的に利用者の希望が実施されるよう常に連絡を取る等努力をしている。	今後は、なじみの美容院を利用したり、なじみの知人・友人宅に遊びに行ったりと、継続的な支援が望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の調査時や入居後でも、生活歴やバックグラウンドに関する情報を聞き取りこれまでの暮らしを把握することでケアに反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを細かく記録し、その行動から感じ取り、その人全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族との日ごろの関わりの中で、それぞれの思いや意見を汲み取り、介護計画に反映している。また少なくとも3カ月毎にモニタリングを行い現状に合った計画に立て直している。	利用者とは日常の関わりの中で、また、家族とは家族会等事業所に来て頂いた際に思いや意見を聴き、反映させるようにしている。アセスメントを含め、職員全員で意見交換やモニタリング、実情に即応した見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいて記録ができており、日々の生活の中で気付きに着目し実践するとともに、その記録を活用して介護計画の見直しを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況に応じ、必要な支援について何ができるか考えながら、可能な限り、出来ることについて取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアには地域交流として定期的に行事等に参加してもらっており、近隣住民・消防署員参加の防火訓練も行った。また、地域の文化祭への作品出展やその見学なども行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっており、受診も家族に出来るだけ同行をお願いしている。不都合な時は職員が代行し、後で家族に報告することになっている。そのことは利用契約時に説明し、同意を得ている。	利用者及び家族の希望するかかりつけ医の受診を行っている。また、家族の同行が困難な場合は、職員が付き添い、後で家族に報告している。なお、職員の働きかけにより、家族以外でも甥や姪など親族の協力も得られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに看護師がいないので健康管理や状況変化に応じた対応ができるよう職員の力量が必要である。併設施設の看護師に勉強会を依頼し、レベルアップを図っていきたい。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に対し本人に関する情報を提供している。入院中にお見舞いに行ったり、担当医師、看護師に状況を聞き取り記録している。状況によっては、家族と相談して、今後の計画を立てている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化した場合における対応に関わる指針の説明を行い、書面に同意の署名・捺印をいただいている。また、入居以降も少なくとも年に1回本人や家族に確認をし、書面に署名・捺印をいただいている。	入居時に利用者、家族に「立位での入浴が難しくなったことを重度化の目安と捉えている。」と説明し、書面での同意書を取っている。また、年一回は、家族会などを利用し、家族の意向も確認し書面に署名・捺印をもらっている。	利用者の意向の変化を踏まえ、安心して最期が迎えられるよう事業所が対応し得る最大のケアについても随時の説明に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成しているが、定期的な訓練や確認ができていない。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年2回の防火訓練は出来ているが、その他の災害については対策が出来ていない。	消防署の協力を得て年2回実施している。その内1回は地域の方々の協力も得られている。しかし、訓練に継続的に関わる職員が少ないため、実際に火災等で避難誘導する場合に現職員の不安がある。	年2回の大掛かりな訓練時の避難誘導に向けて、毎月プレ訓練の機会を取り入れるなど普段の生活の中で利用者を安全に避難誘導できるような仕組み作りを期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会や寮母会を通して、職員の意識向上を図り、一人ひとりの人格・誇りを尊重した関わりを持つように心がけている。	各職員が毎月1回持ち回りで勉強会及びケアワーカー会議を継続している。そうした学習会が利用者の援助に反映され、本人の気持ちを最優先しながらさりげないケアを行ったり自己決定しやすい言葉かけの実施に繋がっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の表情や行動からも勘案して本人が希望や自己決定を表明できるように、職員はそばに寄り添いながら傾聴できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状況を把握して、今日はどうしたいか等を会話の中でさりげなくキャッチして入居者のペースに合わせた対応を心がけているが、日常業務に追われ職員の都合を優先させてしまうことがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の中には、個別に希望する化粧水、シャンプー、石鹸等は買い出し時に自分で選んだり、頼まれる方がいる。理容、美容は行きつけの店に定期的に通えるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は季節やリクエストに応じ、食材は入居者と、毎日行きつけのスーパーに買い出しに行き、調理や片づけも一人ひとりの出来ることを見つけ、全員が関われるように取り組んでいる。	中庭の畑でとれる野菜をプラスして利用者と職員が手作りしたオリジナルメニューで、賑やかで笑顔一杯のランチタイムを楽しんでいる。食後は利用者と職員が一緒となって掃除し合う等微笑ましい光景を醸し出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、栄養バランスや水分量が確保できるよう職員全員で支援している。食事量の少ない方は捕食の摂取のほか、頻回な体重測定も行い、状況の把握に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがいや歯磨きの声かけ、働きかけを行っている。また、協力歯科医の助言をいただき、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼夜一人ひとりの状況に応じたパットを使い分け、排泄機能低下を予防できるように援助している。	日中は勿論、夜間も利用者の排泄状況に応じたパッドの使い分けやトイレ誘導の声かけを行ない、トイレでの自力排泄出が来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便確認を記録して経過観察し、食事も工夫して野菜・乳製品を取り入れている。また、毎日の体操や散歩、レクリエーション等の実施により、身体を動かす機会を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望に沿うようにしている。また季節によっては菖蒲湯やゆず湯を提供している。	利用者の入浴したい日、時間に合わせることを基本に季節や体調も考慮して入浴の順番を決めている。また、菖蒲湯やゆず湯など利用者が入浴を心待ちにする工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の疲れ具合に合わせて休息や安眠をとれるように支援している。また眠れない入居者については家族、医師と相談し生活リズム、薬剤等の在り方について調整に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理して一人ひとりに手渡している。処方時の薬剤の情報票等に基づいて個々の服薬一覧表を作成しており、職員は効用など認識できるように確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや中庭の手入れ、花を生ける等入居者の出来ることや得意分野で力を発揮してもらえるような声かけを常に心がけ、個々に合った楽しみや役割を職員と一緒に行い、感謝の気持ちも伝えるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	晴れている日には周辺の散歩や毎日の買い出し、又一人ひとりの希望に応じた個別外出を楽しめるようにしているが、人数不足のために思うように出来ないのが現状である。	散歩は天候に合わせて歩く距離や場所を変えるなど細やかな心配りで利用者の外出支援を行っている。また、毎日の食材の買出しにも利用者と共に出掛ける等日常的に外出支援が行われている。	今後は、利用者一人ひとりの希望に沿った外出の実現に向け、外出ボランティアの利用も期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て所持している方もいる。グループホームでお金を管理している方でも、買い物や外出時には本人自身が財布を持ち購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は自室でゆっくり話せるように子機を使用していただいている。また、希望があればいつでも使用できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、音楽を流したりと居心地良く過ごせる共有の空間づくりを心がけている。共用空間の明かりも加減し、明かるすぎたり暗すぎたりしないように気を配っている。	照明やブラインドを利用して部屋の明るさを調節したり、部屋のあちらこちらに柿の実付き枝や季節感溢れる生け花を飾る等共有空間づくりを心掛けている。また、午前中は童謡やナツメロの歌謡曲のBGMで利用者の心を和ませる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはテレビ、ソファー、テーブルを置き自由に過ごせるようにしている。また、食事の席は、利用者の人間関係に基づいて決まった席になっており、利用者はそこで思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた物品を置いたり、写真や趣味で作った作品を飾ることで、落ち着いて過ごせるように工夫している。また、本人や家族の希望に応じて、可能な限り居室に馴染みの物を持ち込めるように支援している。	見学した部屋はいずれも掃除が行き届いている。自宅で使っていたソファーなど一部の物は、馴染みのもの、古いものが置かれていたが、ベッド、整理ダンスなど殆どの部屋が画一化されている。	入居前に使っていた布団や枕、家族の写真や仏壇など、使い慣れた生活用品や思い入れのあるものを持ち込むなど、利用者がより一層心和む居室作りに期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手作りの表札・暖簾をかけトイレの扉を赤にする等、失敗のないよう工夫している。		

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況
Ⅰ.理念に基づく運営			
1	(1)	グループホームとよなか 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との関わりを重視し、住み慣れた地域で安心した生活が送れるような理念を職員全員で考え、また毎日の朝礼時に理念を唱和し実践が理念に基づいたものになるよう取り組んでいる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年より職員が地域活動（井手ざらえ）に参加し、継続して参加し続けている。また、地域の文化祭に作品を出品したり見学をするなどし、交流を図っている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前管理者が自治会の集会に出向き、認知症に関する勉強会を開催した。運営推進会議にて話し合ってはいるが、実践には至っていない。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1度定期的に開催されており、評価の報告を行うとともに、そこで上がった意見について出来そうなことをサービスに反映するように努めている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は市町村担当者と連絡、行き来する機会がある。その他の職員については運営推進会議以外はあまり行き来がない。互いの情報交換を行う等サービス向上に向けた取り組みをしていく必要がある。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の安全を追求しながら自由な暮らしを支える取り組みを職員が理解し、いつでも気軽に出入りできるようにしている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会で虐待を正しく理解し、入居者の権利が守れるよう職員は日々取り組んでいる。

グループホームとよなか（さくらユニット）

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一昨年は外部から講師を招いた勉強会をもったが、昨年は勉強会を開いていない。外部研修に参加した職員もいるが、それを活かした勉強会などはもてていない。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明や重度化に向けての指針などを詳しく説明している。また入居者、家族の不安や疑問にも十分な時間をかけ対応している。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は日々のケアの中で、利用者一人ひとりの発言や態度等、気付いたことを毎日のケース記録に記入している。また、家族会や面会時には状況報告をした際に意見を聞くような働きかけをしており、職員全員が家族の意見に耳を傾け反映していく体制づくりができている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月１回のケアワーカー会議にて問題点や改善策を具体的に話し合う等ホームの運営やサービス内容に職員の声は活かされている。また職員から運営者に対しては法人の代表者会議を意見具申の場として活用する試みが始まっている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績に応じて研修参加や資格取得に向けて勤務調整しながら努めている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症勉強会を継続して開催している。法人外の研修には管理者等は参加しているがその他の職員はなかなか参加する機会がない。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会主催の研修会に参加する他、地域の事業者へ見学に行ったり、地域の事業者協議会の立ち上げに関わり、その勉強会などに参加するなどしている。

グループホームとよなか（さくらユニット）

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人との面談を行い、不安や困っている問題と向き合い、一緒に解決の糸口を探しその人なりの理解に努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や入居調査時には納得のいく形で入居していただけるよう説明を行い、現状で困っている事や意見を入居後のケアに反映されるようにしている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の中で本人や家族が望んでいる事を踏まえ、総合的に見て必要な支援を考え、他のサービス利用についてアドバイスを行うとともに、GHで生活する上で必要な問題点を明確にし優先順位を定め柔軟な対応ができている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの経験を生かして日々の生活の中で教えていただいたり、日常のコミュニケーションを重ねることで共に支えあえる関係作りに留意している。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や状況報告を通じて情報を共有したり、ケアに関して相談しあうことで一緒に問題に取り組み、職員と家族が本人の生活を支援し支えていけるような協力関係が維持できるように努めている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	GHへの面会などでこれまで関係があった方との交流が図れるような支援をしたり、家族の協力で外出や外食をしている方もいる。ただ、外出に努めてはいるものの、本人に馴染みのある場所への外出はできておらず、関係は薄くなりつつある。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士が声を掛け合い、自主的に役割を持ってくれている。出来ない人には生活の中で出番や役割分担ができるよう職員が調整役として支援している。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の協力病院へのお見舞いや支援相談、他のサービス利用やその手続きの支援を行っている。
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の意向を把握し、家族の意向も踏まえながら、その人らしい生活を送れるように支援に努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の調査時や入居後でも、生活歴やバックグラウンドに関する情報を聞き取りこれまでの暮らしを把握することでケアに反映している。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活ペースを細かく記録し、現状を把握できるように努めている。
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族との日ごろの関わりの中で、それぞれの思いや意見を汲み取り、介護計画に反映している。また少なくとも3カ月毎にモニタリングを行い現状に合った計画に立て直している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいて記録ができており、日々の生活の中で気付きに着目し実践するとともに、その記録を活用して介護計画の見直しを行っている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況に応じ、必要な支援について何ができるか考えながら、可能な限り、出来ることについて取り組んでいる。

グループホームとよなか（さくらユニット）

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアには地域交流として定期的に行事等に参加してもらっており、近隣住民・消防署員参加の防火訓練も行った。また、地域の文化祭への作品出展やその見学なども行っている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっており、受診も家族に出来るだけ同行をお願いしている。不都合な時は職員が代行し、後で家族に報告することになっている。そのことは利用契約時に説明し、同意を得ている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GHに看護師がいないので健康管理や状況変化に応じた対応ができるよう職員の力量が必要である。併設施設の看護師に勉強会を依頼し、レベルアップを図っていきたい。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に対し本人に関する情報を提供している。入院中にお見舞いに行ったり、担当医師、看護師に状況を聞き取り記録している。状況によっては、家族と相談して、今後の計画を立てている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化した場合における対応に関わる指針の説明を行い、書面に同意の署名・捺印をいただいている。また、入居以降も少なくとも年に1回本人や家族に確認をし、書面に署名・捺印をいただいている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成しているが、定期的な訓練や確認ができていない。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年2回の防火訓練は出来ているが、その他の災害については対策が出来ていない。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会や寮母会を通して、職員の意識向上を図り、一人ひとりの人格・誇りを尊重した関わりを持つように心がけている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を通して入居者の希望・関心・嗜好を見極め、それに応じて複数の選択肢を提案して一人ひとりの入居者が自分で決める場面を作っている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の状態を申し送り等で確認し、その日の言動から本人のペースに合わせた支援をしている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて支援をし、また日ごろから化粧やおしゃれを楽しんでもらうようにしている。理容・美容は行きつけの店に定期的に通えるように家族と相談し支援している。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は季節やリクエストに応じ、食材は入居者と、毎日行きつけのスーパーに買い出しに行き、調理や片づけも一人ひとりの出来ることを見つけ、全員が関われるように取り組んでいる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、栄養バランスや水分量が確保できるよう職員全員で支援している。食事量の少ない方は捕食の摂取のほか、頻回な体重測定も行い、状況の把握に努めている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食後のうがいと夕食後は利用者の能力に応じて声かけ見守り・介助を行い、口腔ケアを徹底している。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼夜一人ひとりの状況に応じたパットを使い分け、排泄機能低下を予防できるように援助している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ下剤服用せず、食品や適度な運動を心がけて自然排便ができるようにしている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は決まっているが、毎日全員の入浴を行っている。順番は不平のないようにローテーションを組んでいる。一人ひとりすべての希望に添えられてはいないが、共同生活の中で可能な限りの支援を行っている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調などを考慮しながら、個々に合わせた休息や安眠を取れるように支援している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理して一人ひとりに手渡している。処方時の薬剤の情報票等に基づいて個々の服薬一覧表を作成しており、職員は効能など認識できるように確認している。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや中庭の手入れ、花を生ける等入居者の出来ることや得意分野で力を発揮してもらえるような声かけを常に心がけ、個々に合った楽しみや役割を職員と一緒に行い、感謝の気持ちも伝えるようにしている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や本人の気分、希望に応じて毎日の散歩や買い物などに出かけている。個別外出は人数不足のためなかなか実現できていない。

グループホームとよなか（さくらユニット）

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て所持している方もいる。GHでお金を管理している方でも、買い物や外出時には本人自身が財布を持ち購入できるように支援している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は自室でゆっくり話せるように子機を使用していただいている。また、希望があればいつでも使用できるようにしている。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、音楽を流したりと居心地良く過ごせる共有の空間づくりを心がけている。共用空間の明かりも加減し、明かりすぎたり暗すぎたりしないように気を配っている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルに座る位置を工夫したり、ソファーに座ったりと利用者同士がゆっくりと過ごせるように工夫している。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた物品を置いたり、写真や趣味で作った作品を飾ることで、落ち着いて過ごせるように工夫している。また、本人や家族の希望に応じて、可能な限り居室に馴染みの物を持ち込めるように支援している。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手作りの表札・暖簾をかけトイレの扉を赤にする等、失敗のないよう工夫している。